

報告番号	甲 乙 第 号	氏 名	郭 笑 蕾
<p>主 論 文 題 名 :</p> <p style="text-align: center;"><b>グローバル時代における国際結婚と社会統合に関する社会学的考察</b> —日本における都市部の中国人国際結婚女性を事例に—</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、日本の都市部に暮らす日本人男性と結婚した中国人女性を対象とし、国際結婚と社会統合をめぐる状況を明らかにすることを目的とした。とりわけ、国際結婚が発生する要因を明らかにしたうえで、彼女たちがどのように日本社会に統合していくのかというプロセスの諸相を探究した。</p> <p>上記の問題意識のもとで、本研究は、グローバル時代における国際移民の現状を移民の女性化の表れとして位置づけた。そして先行研究の批判的考察を踏まえて、国際結婚をした中国人女性がどのような国際移動を経験し、どのように国際結婚を選択するのか、結婚後に日本社会でどのようなキャリアを歩むのか、定住に関してどのような計画を持つのかといった具体的な論点を検討した。そして、中国人国際結婚移住女性が経験している移動の多様化を示し、彼女たちが日本社会で直面している様々な制限や、それを乗り越えるために活用している諸資源の多様性について考察し、彼女たちの国際結婚と社会統合における主体性の側面を強調した。これらを通じて、国際移動が活発化する時代に出現した、日中国際移民女性の新たなイメージを描くことを試みた。</p> <p>国際結婚女性に関する先行研究には、いわゆる農村花嫁や農村部における「外国人花嫁」を対象とするものが比較的多い。しかし、日本人男性と結婚し、都市で暮らす国際結婚移住女性も増加しつつある。よりバランスのとれた現状把握のためには、農村地域外の状況を見ることが重要である。また、インターマリッジに関する欧米の先行研究には、量的調査法を用いたものが多い。しかし、国際結婚をした人々が実際に、結婚前後にどのような生活を送り、どのような経緯で国際結婚を選んだのかといったことを分析するためには、当事者の主観的経験や意味世界にアプローチできる質的研究が適している。そこで本研究では、日中国際結婚移住女性の主観的経験を把握するため、彼女たちにインタビュー調査を行い、分析した。</p> <p>まずは、グローバル時代における日中国際結婚の発生に影響を与える諸要因について分析した。それは、トランスナショナルな移動によりもたらされる結婚相手との出会いの場の多様化と、言語・文化的な要素が果たす役割、国際結婚女性の主体性といった要因である。留学や就職、あるいは中国における伝統的なジェンダー規範からの逃避、中国でのキャリアの展開の困難さは、女性たちが国際結婚をする前の移動の主なる要因であることが確認された。調査対象者のこうした移動経験と配偶者選択を分析すると、移動の多様化がもたらす出会いの場の多様化によって発生した国際結婚には、従来の先行研究で描かれてきた日中国際結婚のパターンとは異なり、学歴・階層的同類婚が顕著であることがわかった。そして国際結婚女性がもともと日本語や日本文化に興味を持っていることと、日本人男性が中国や中国文化に興味を持っていることが、国際結婚の可能性を高めていると示された。また、偶発性と未知性も国際結婚が発生するもう一つの要因となる。国際結婚を通じて、将来の様々な可能性が提広がり、未知性があふれ挑戦</p>			

するチャンスに開かれた人生を送ることで、国際結婚女性の主体性が発揮され、彼女たちが自らのライフコースを自発的に選択し形成していく様子が明らかになった。

また、日本に居住する6名の日中国際結婚移住女性の事例を取り上げ、彼女たちのキャリア形成に影響を与える諸要因と、新たに開拓されたキャリアの可能性をめぐって詳しく考察した。社会関係資本と人的資本は、来日したばかりのキャリア選択、とりわけ勤務形態に大きな影響を与えることが明らかになった。また、国際結婚移住女性のキャリア形成はライフコースの進展とともに変容していくことも明確になった。ライフコースの進展や、日本社会での生活年数が長期化するにつれ、国際結婚移住女性は社会関係を発展させ、社会関係資本と人的資本を蓄積していく。また、社会関係資本・人的資本の不足によりキャリアが制限された国際結婚移住女性は、自らの主体性を発揮し、蓄積してきたトランスナショナルな社会関係資本を利用することで、新たなキャリアの可能性を開拓することが可能となっていた。

そして、国際結婚移住女性の定住に関する意識と定住決定に影響を与える要因について分析した。調査時点ですべての調査協力者は日本で居住していたが、将来どこに住むかについては確定していない調査協力者が多く、フレキシブルな定住のあり方が明らかにされた。一方、日本に定住するという意向を明確に持つ場合や、あるいは日本での定住を諦め、中国に帰国することを決めた事例もある。それぞれのパターンの背景には、様々な要因が絡みあっていることが明らかになった。日中国際結婚移住女性は、日本の労働市場での昇進困難や、日本人とのネットワークの希薄さ、中国にいる両親への介護といった問題に直面しがちであり、将来日本で定住することについて不安を感じている場合が少なくない。このような不安を解消するため、女性たちは自らの主体性を発揮しながら、問題の解決に向けて様々な戦略を取る。そして、日中国際結婚女性は日本に居住しても、日本と中国の間のトランスナショナルなつながりを保つことによって、将来のトランスナショナルな移動の可能性を高めることが明確にされた。

分析結果としては、以下の三点にまとめられる。

第一に、本研究で取り上げられた国際結婚移住女性の事例からは、移動の多様化による出会いの場の拡大と、言葉や文化を介した親近性による配偶者選択は、ハイパーガミーという国際結婚の様式ではなく、同類婚を多く発生させうることがわかった。また、社会関係資本と人的資本が国際結婚と社会統合の関係性に与える影響について分析した結果、その関係性は階層によって規定されていることが明らかになった。

第二に、本研究における日中国際結婚移住女性の分析から、トランスナショナリズムが国際結婚移住女性の定住と社会統合に与える影響が示唆される。

第三に、国際結婚移住女性のキャリア形成と定住意識がライフコースの進展とともに変容するということが明らかになった。